

プロジェクト責任者：丹羽 隆介（教授） ryusuke-niwa@tara.tsukuba.ac.jp

# 様々な生命現象に関与する液性因子 （神経伝達物質・ホルモン・毒）の研究

多細胞からなる動物の体の機能の維持には、自律神経系が産生する神経伝達物質や、各種臓器が産生するホルモンが重要な役割を担います。特に近年、様々な臓器の間でこれらの液性因子を介した信号が交されること（臓器連環）の重要性が認識され、その破綻はがんなどの病気に直結することも提唱されています。一方、自然界を見渡せば、ある個体が別の個体を攪乱するような毒も、生態系の中で重要な役割を持つ液性因子として存在しています。しかし、これらの内在性あるいは外来の液性因子の作用機序には多くの未解明の課題が残されています。

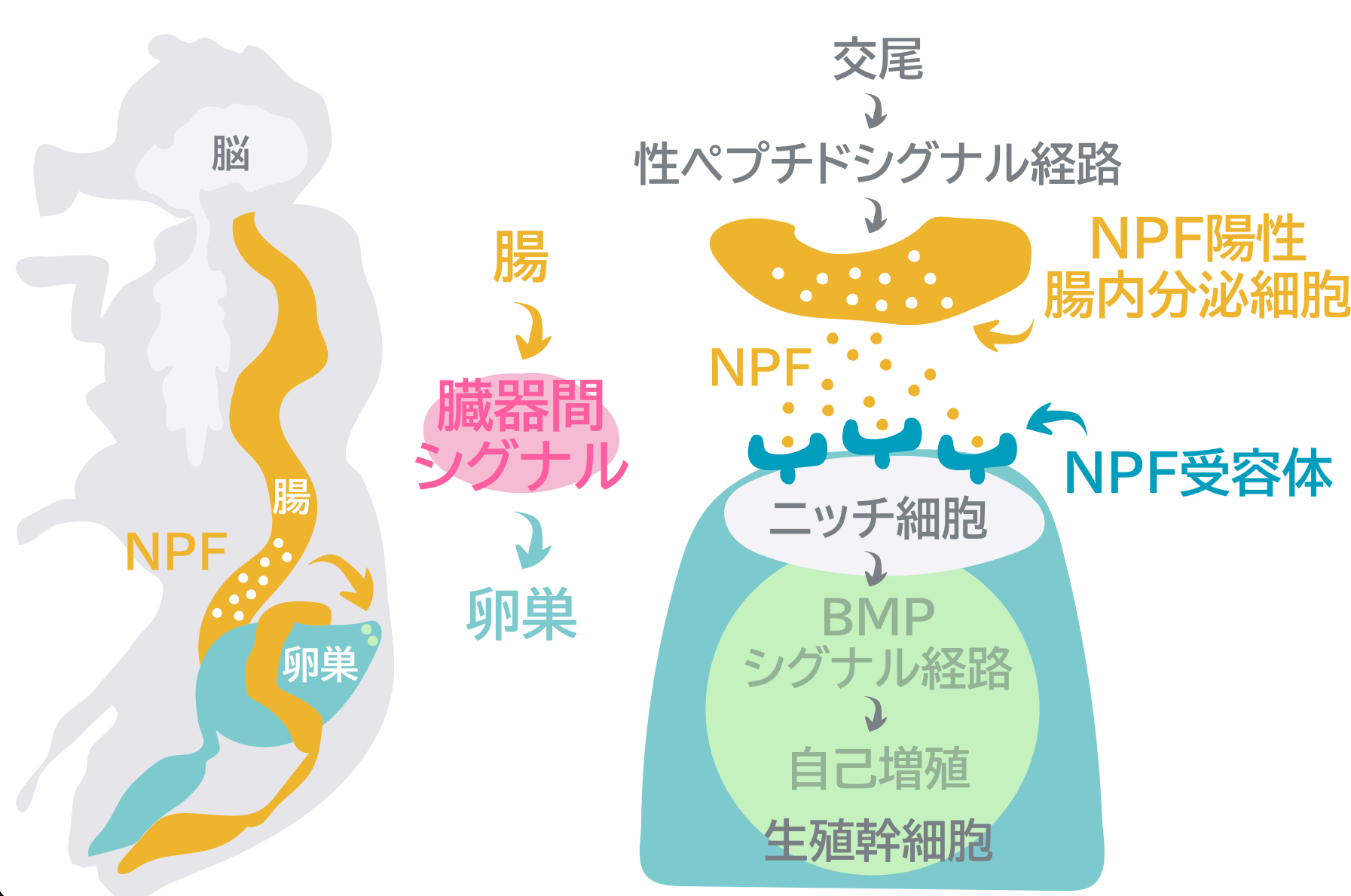


【令和6年度構成員：計22名】

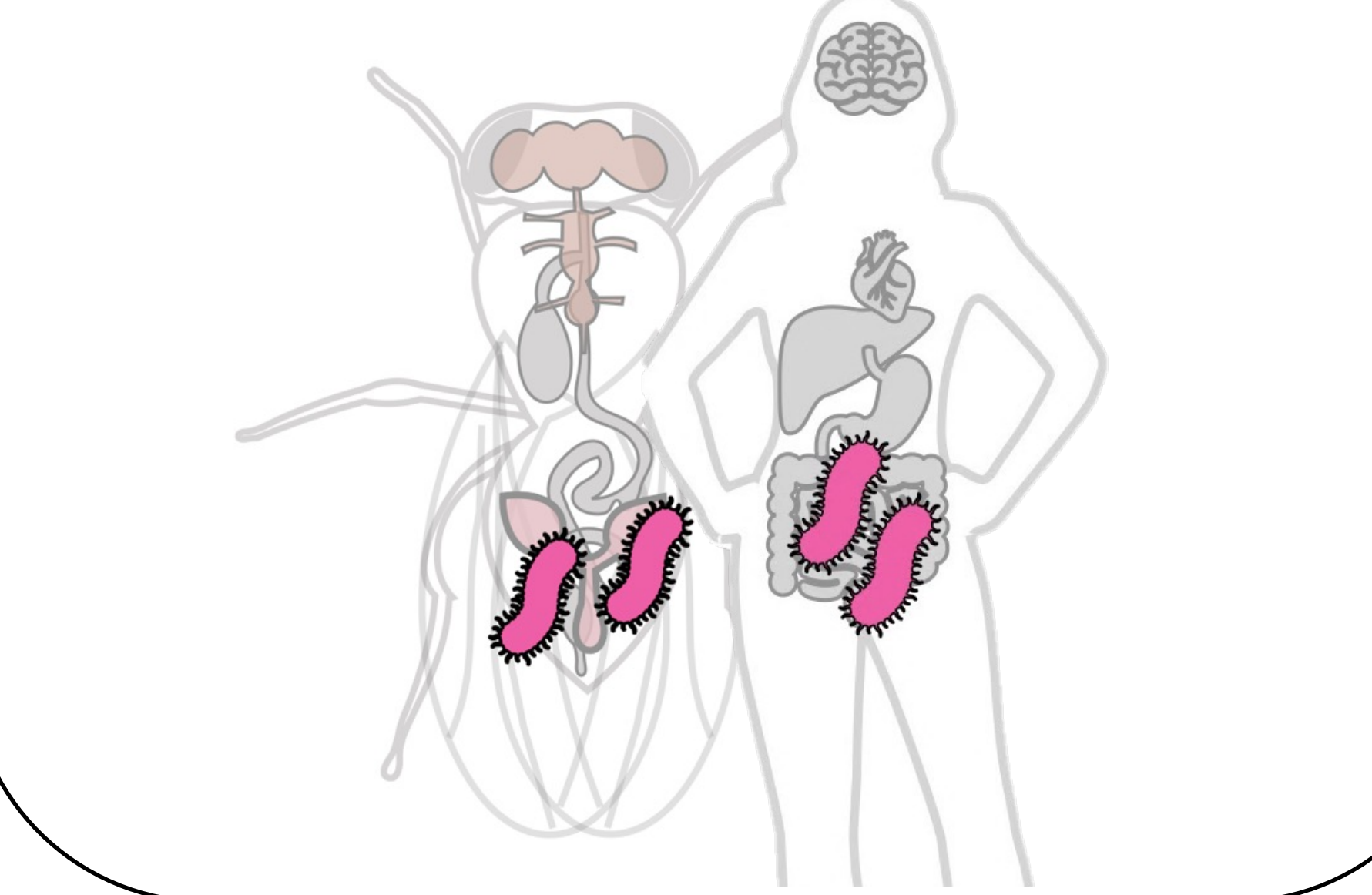
教授1名、准教授1名、助教4名、  
 研究員1名、秘書1名、技術補佐員1名、  
 博士後期課程5名（内、学振採択者3名、  
 JST-SPRING 2名）、  
 修士課程3名、学類生5名

私たちは、ショウジョウバエと寄生蜂を主な材料として、  
 ホルモン、神経伝達物質、そして毒の作用を追究し、  
 ヒトにまで敷衍できるメカニズムの解明を目指します。

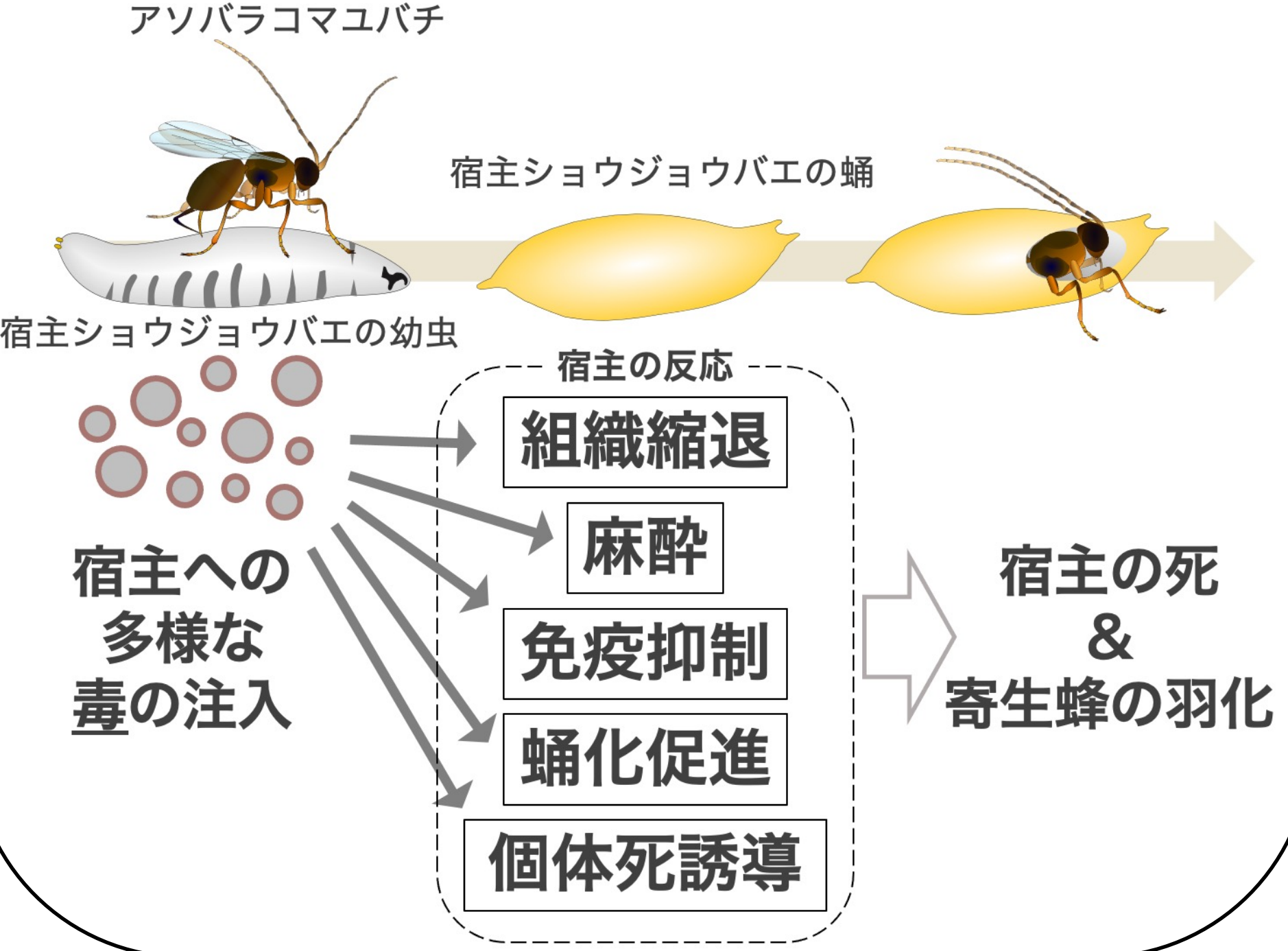
## 幹細胞の増殖と維持の 臓器連環システム



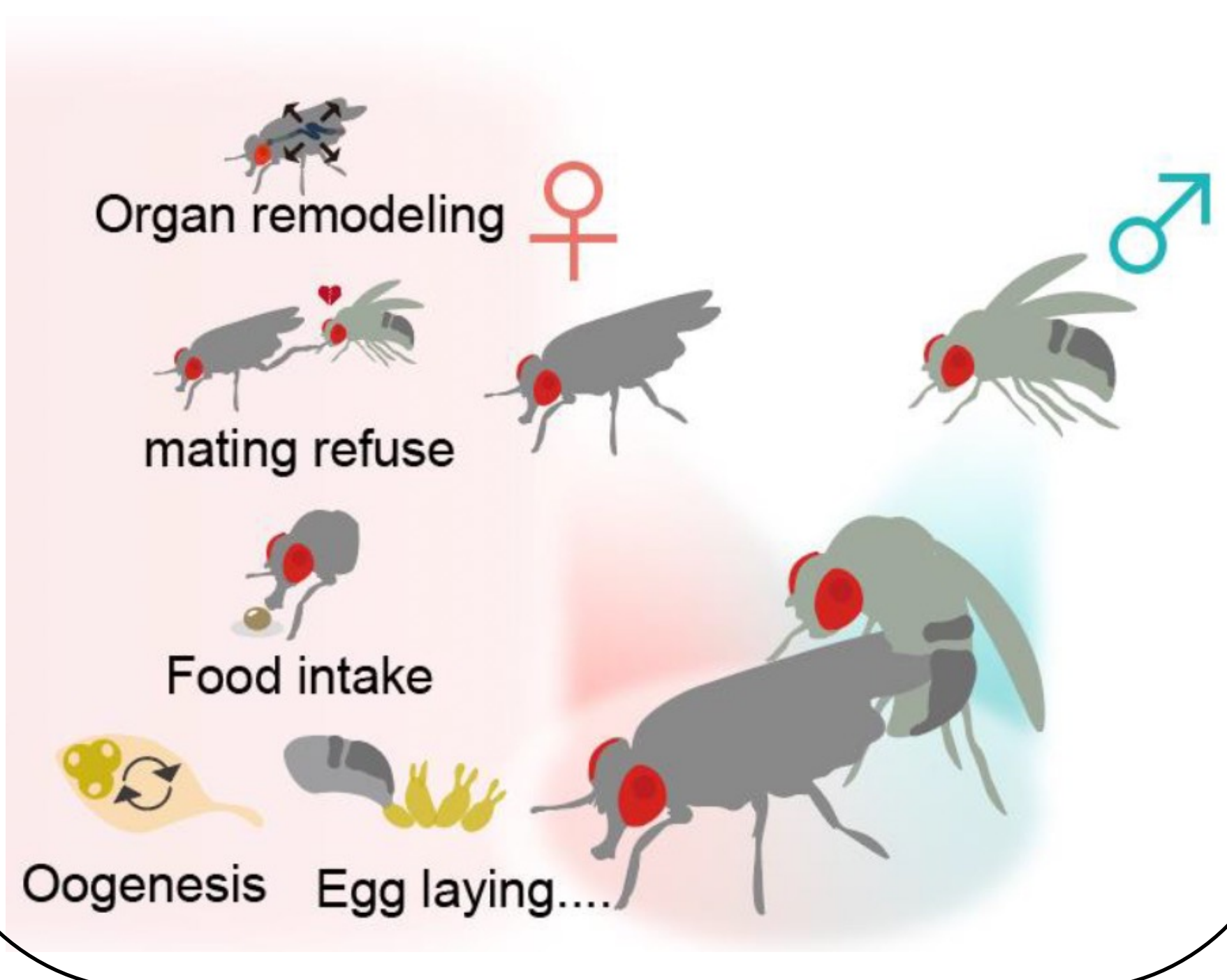
## ショウジョウバエを モデルとした腸内細菌 とがんの関連の研究



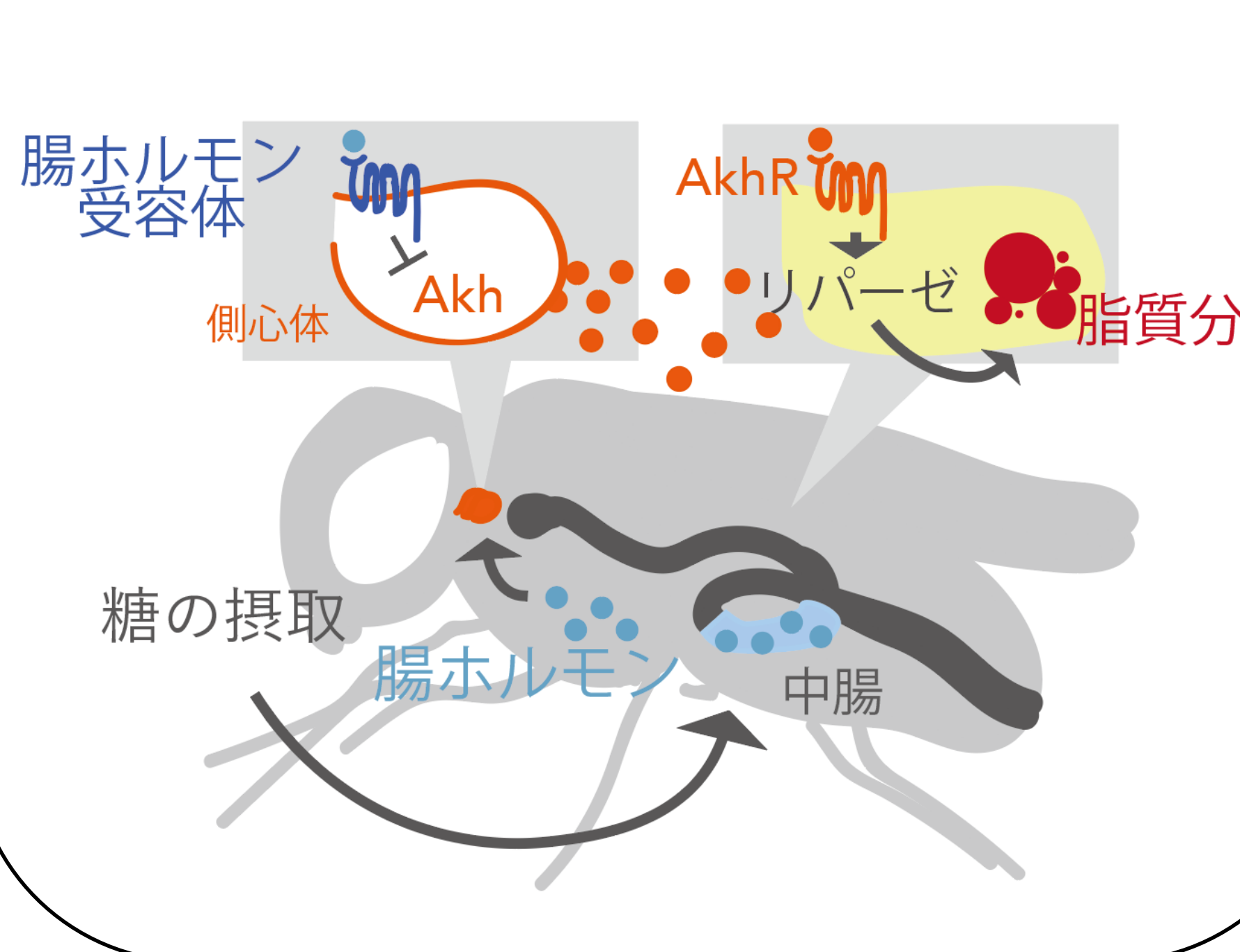
## 寄生蜂毒による宿主 操作の分子メカニズム



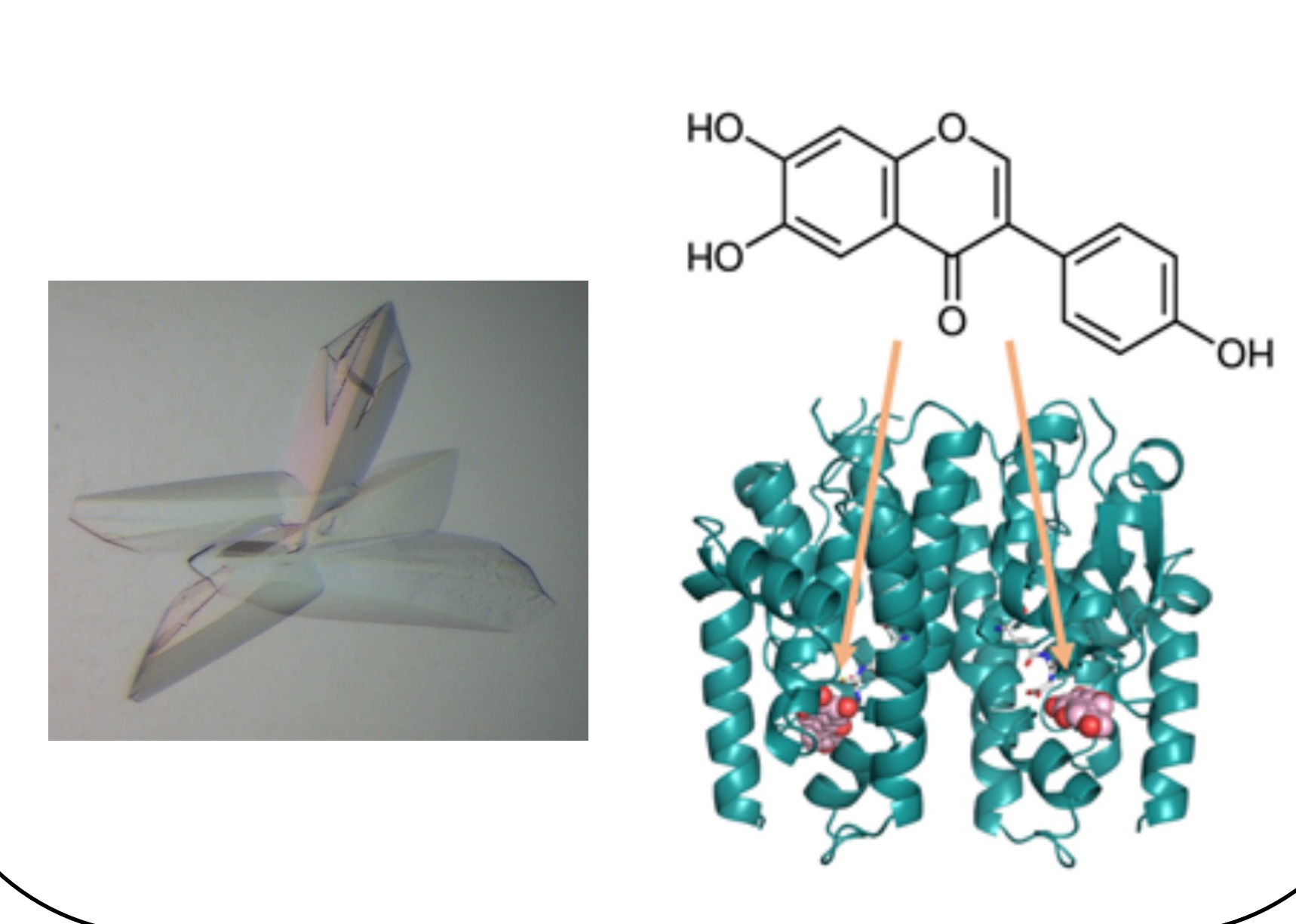
## 交尾に伴う個体の 変化のメカニズム



## 栄養とエネルギーの 代謝調節システム



## 昆虫生理学の 基礎的知見を 活かした創農薬科学

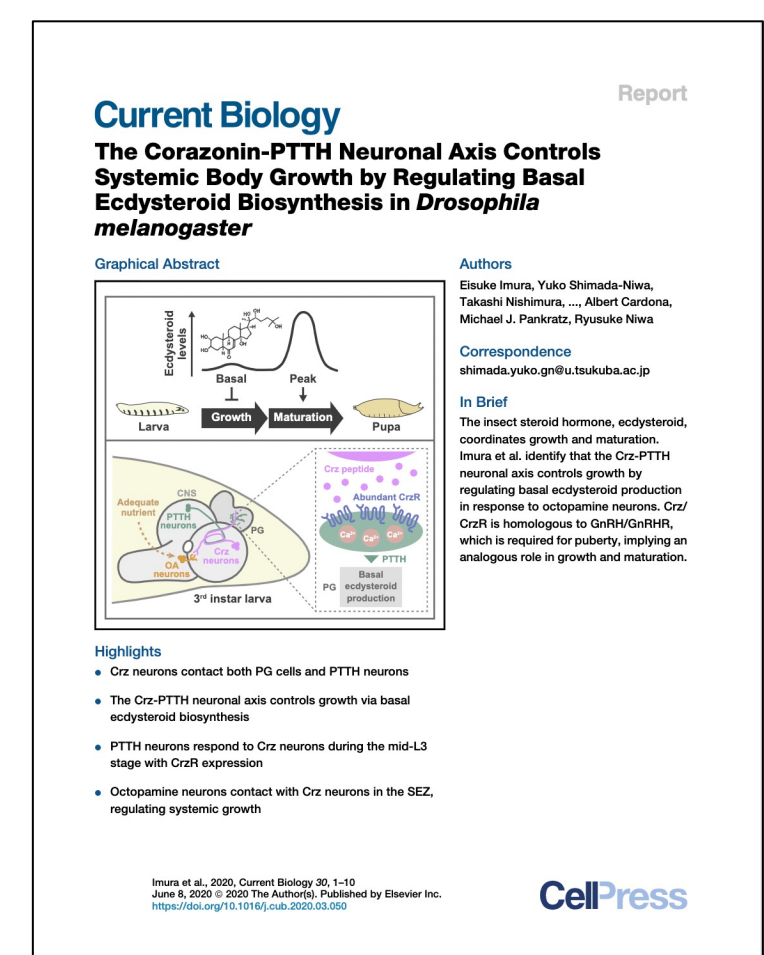


【2020年以降の所属学生を筆頭とする主要原著論文】

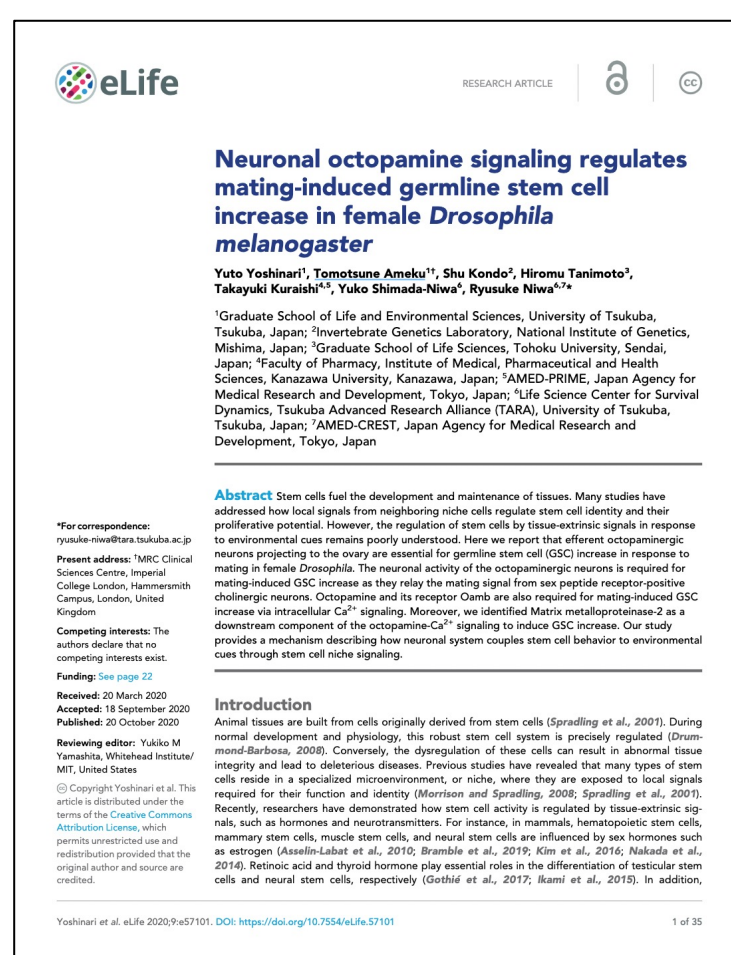
*J. Biol. Chem.*  
2020



*Curr. Biol.* 2020



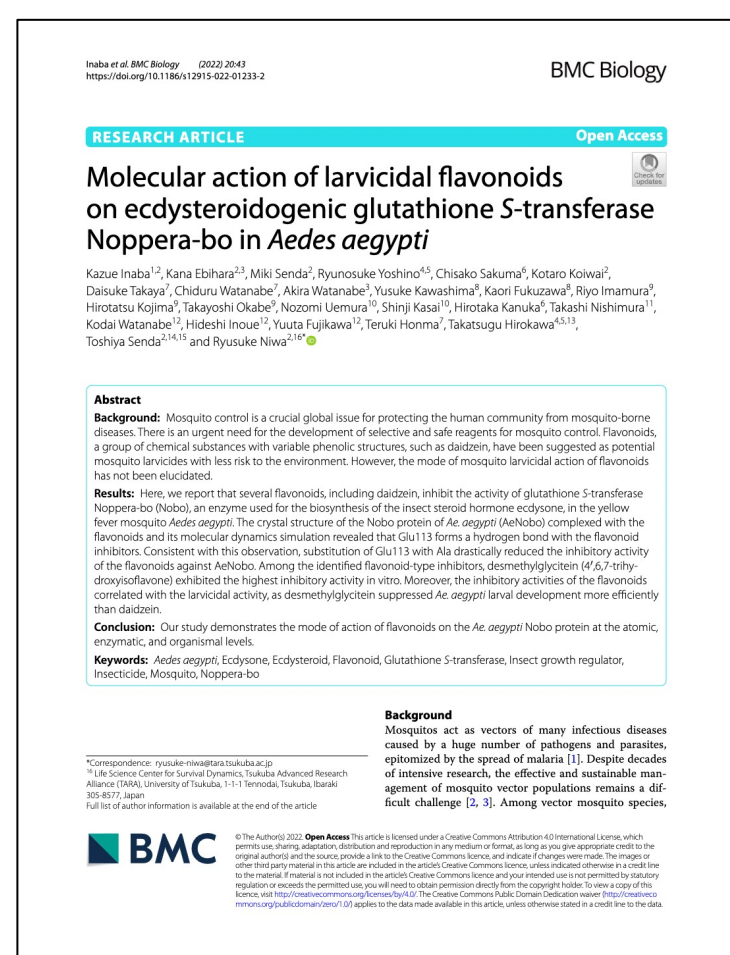
*eLife* 2020



*Nature Commun.*  
2021



*BMC Biol.* 2022



*Development*  
2023



*Science Adv.* 2023

